



証券コード: 7963

平成26年12月期 決算説明資料



クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

平成26年12月期 決算概要

営業の経過及び成果

当連結会計年度(平成26年1月～12月)におけるわが国経済は、緩やかな回復基調で推移しましたが、消費税率引き上げの影響や円安による原材料価格の上昇など国内景気を下押しする要因も見られ、先行きは不透明な状況が続きました。

このような経営環境の中、当社グループは足下の収益確保と業容の発展・拡大に向け、「クリーン事業の確立(KOACHテイクオフの実現)」及び「マスク関連事業の強化」等の取り組みを行った結果、売上高は75億円となりました。なお、当期より連結対象といたしました海外生産子会社SIAM KOKEN LTD. は工場も完成し、次期からいよいよ生産を開始する予定です。

利益につきましては、原材料価格の上昇が続く中、生産の効率化等による売上原価の低減に努めた結果、売上総利益率は前期水準を維持することができましたが、電動ファン付き呼吸用保護具の国家検定化に伴う検定申請費用や子会社設立に関わる費用等による販売費・一般管理費が増加したため、営業利益3億70百万円、経常利益3億15百万円、当期純利益1億47百万円となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

(マスク関連事業)

震災対策用マスクの販売は、官公庁及び原発での備蓄一巡によって対前期比約3億円減少したことに加え、防衛予算の海空シフトの中で防護マスクについても受注減となりました。その一方で国内の民間製造業のマスク需要は増加傾向にあり、消費増税前に発生した一部商品の駆け込み需要の反動も見られず、受注は堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は67億16百万円となりました。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」につきましては、宇宙航空研究開発機構JAXA様や京都大学iPS細胞研究所様など最先端の研究機関での採用に加え、民間製造業の組立・検査などのライン作業用として採用されるなど、その用途は拡大しています。そうした動きに加え「フロアコーチExp・Ezp」の機械工業デザイン最優秀賞(経済産業大臣賞)受賞も後押しとなり、物件情報数は予想を超える前期末の3倍となる1,800件となりました。しかし、本格的な受注については、当初予定していた急激な増加は今一步のところまで、至ることができませんでした。

しかし現在、平成27年度納期決定の引き合いが増えていることから、ようやく事業の立ち上がり時期に近づいたと判断しております。以上の状況から、当事業の売上高は7億84百万円となりました。

なお、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しておりますので、前連結会計年度との比較分析は行っておりません。

業績の概要

(百万円未満切捨て)

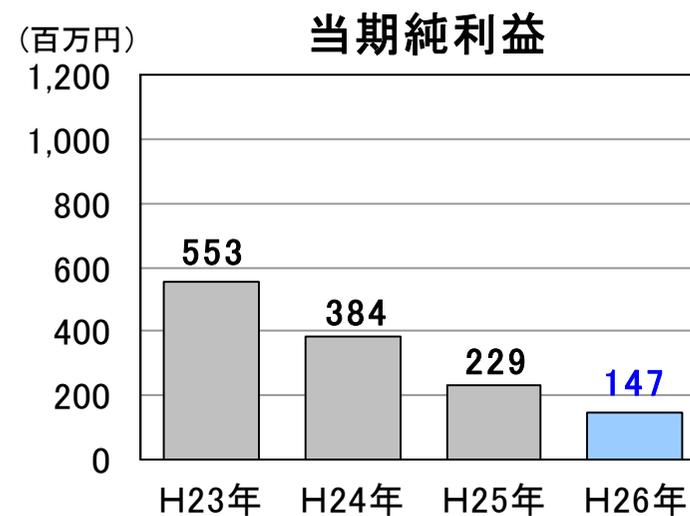
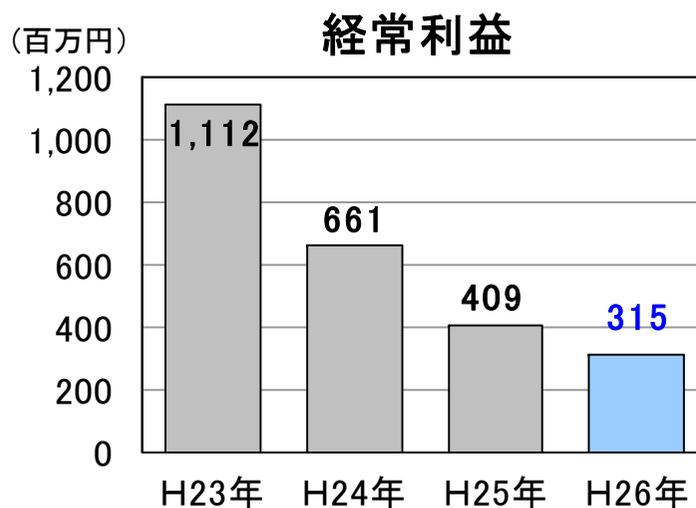
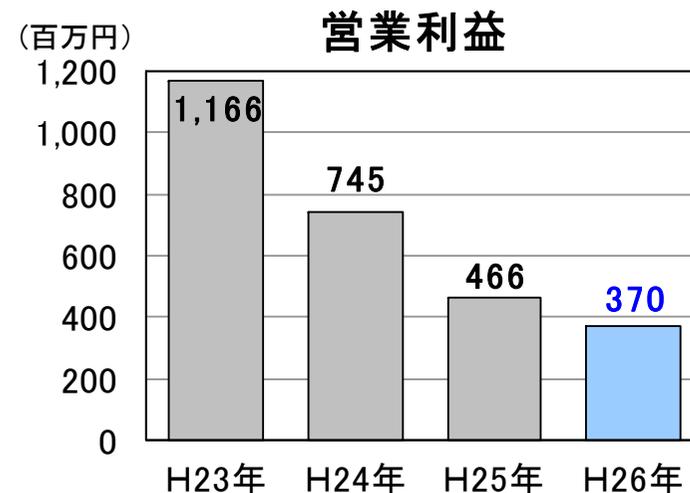
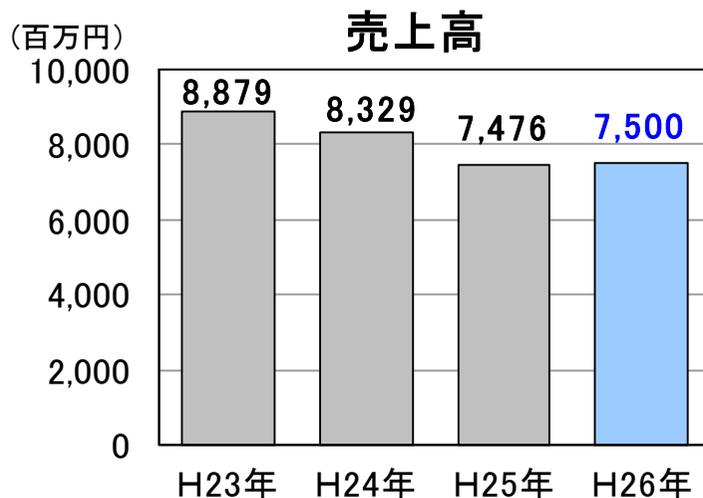
	平成25年12月期 (非連結)		平成26年12月期 (連結)	
	金額	比率(%)	金額	比率(%)
売上高	7,476	100.0	7,500	100.0
売上総利益	3,292	44.0	3,317	44.2
営業利益	466	6.2	370	4.9
経常利益	409	5.5	315	4.2
当期純利益	229	3.1	147	2.0
1株当たり当期純利益(円)	45.45	—	29.22	—

	平成25年12月末(非連結)	平成26年12月末(連結)
総資産	15,465	15,552
負債	6,785	6,777
純資産	8,679	8,775
自己資本比率(%)	55.9	56.1
1株当たり純資産(円)	1,713.23	1,720.40

※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

売上高・利益の推移

(百万円未満切捨て)



※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

セグメント別売上高の推移

(百万円)

10,000

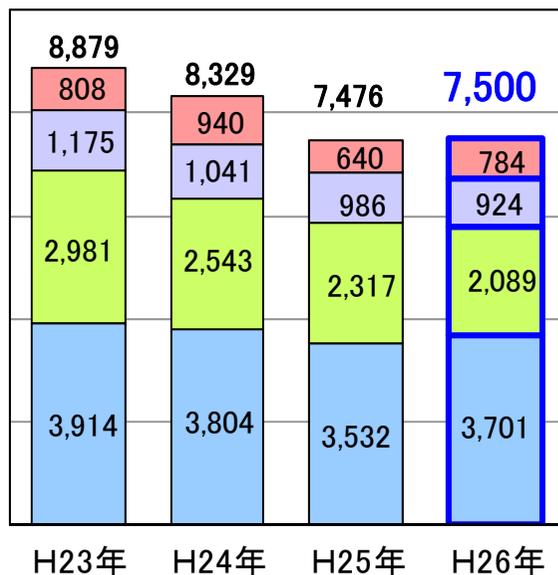
8,000

6,000

4,000

2,000

0



(百万円未満切捨て)

事業の状況

マスク関連事業 (■ 防じんマスク、■ 防毒マスク、■ マスク関連その他製品)

震災特需の消滅と防衛省向けマスクの受注減があったものの、民間製造業のマスク需要は堅調に推移しました。また、全国の保健所や感染症指定医療機関など、医療分野のマスク販売は今期も好調でした。

■ その他事業 (環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」は、宇宙航空研究開発機構JAXA様や京都大学iPS細胞研究所様などの研究機関での採用に加え、民間製造業への納入も増加しました。当期末「KOACH」の物件情報数は1,800件を超えましたが、それにともなった受注の急増までには至りませんでした。

品目区分	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 防じんマスク	3,914	44.1%	3,804	45.7%	3,532	47.2%	3,701	49.3%
■ 防毒マスク	2,981	33.6%	2,543	30.5%	2,317	31.0%	2,089	27.9%
■ マスク関連その他製品	1,175	13.2%	1,041	12.5%	986	13.2%	924	12.3%
小計	8,070	90.9%	7,388	88.7%	6,836	91.4%	6,716	89.5%
■ その他	808	9.1%	940	11.3%	640	8.6%	784	10.5%
合計	8,879	100.0%	8,329	100.0%	7,476	100.0%	7,500	100.0%

※品目別売上高につきましては、子会社による販売がないため、親会社のみの数値を掲載しております。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 興研株式会社

トピックス

◇フローコーチExp・Ezpが「機械工業デザイン賞 最優秀賞(経済産業大臣賞)」を受賞

スリープモード付きオープンクリーンシステムKOACH「フローコーチExp・Ezp」が日刊工業新聞社主催の機械工業デザイン賞で最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。

本賞は、性能向上や産業振興のため、新しいデザインの在りようを明らかにしていくことを目的に、1970年、日刊工業新聞社が経済産業省の後援、日本商工会議所、各工業団体の協賛を得て創設されました。生産財を主な対象として行われる審査は、的確な企画で独創性があり、①機能・品質が優れ、安全性の条件を十分に満たしていること、②造形処理が総合的によくまとめられていること、③合理的価格であり、市場性および社会性の高いこと、を基準とされています。審査委員会は関係省庁、大学、各工業団体の権威者で構成されており、委員代表の千葉大学青木弘行名誉教授からは、「フローコーチExp・Ezpは、独創的な技術開発成果を基盤としてデザインによる企業独自のバランス解を創出している。」とのご講評をいただきました。

過去に最優秀賞を受賞した製品の中には、全自動金属加工システムなどの生産機械などのほかに、CTスキャナやファイバースコープなどの医療機器、スーパーコンピュータや汎用シーケンサなどの精密機械、500系新幹線やリニア地下鉄3000系車両など、各時代のデザインの方向性を示唆する先端的製品として高く評価される製品が並んでいます。

これまでもその機能性や独創性が高く評価されてきた「KOACH」ですが、本賞の受賞によって機能性、独創性はもとより、造形処理の優秀性や市場性、社会性も高く評価していただく結果となりました。

なお「フローコーチEzp」は、平成27年に入り「優秀省エネルギー機器表彰 日本機械工業連合会会長賞」を受賞しております。



贈賞式に出席された各賞受賞の企業代表者。前列左から5人目 株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長 井水治博氏、同6人目 経済産業省商務情報政策局長 富田健介氏、同7人目 弊社代表取締役社長 村川勉



受賞講演を行う
弊社代表取締役社長 村川 勉



受賞したフローコーチEzp(スリープモード付き)
夜間、休憩、休日などの作業休止時には、スリープモード
運転に切替えてスライドスクリーン開口部を閉じ、クリーン
ゾーン内部を陽圧状態に保ちながら消費電力をオープン
時の約70%カットすることができる

◇様々な分野で採用が進むオープンクリーンシステム「KOACH」

当社が生み出したオープンクリーンシステム「KOACH」は、廉価でどこでも簡単に導入でき、実に使いやすいスーパークリーン空間を作り出すクリーン化装置です。

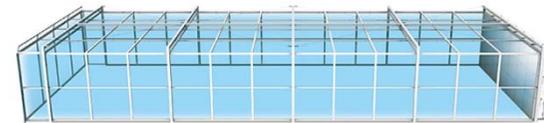
「KOACH」は、①圧倒的に清浄度が高く、クリーン度の維持も楽、②建屋でなく機器なのでコストが安い、③オープンなので、使い勝手が良い、④消費電力が低い、⑤ルーム型コーチは、移動が可能で拡大縮小もでき、クリーンを必要とする限り投資に失敗しない、⑥天井に重量物がなく地震に強い、⑦設置期間が圧倒的に短い等の導入メリットにより、“研究室を変える・生産現場を変える”クリーンシステムとして産業技術や研究開発など、様々な分野で採用が進んでいます。



オープンクリーンベンチ



テーブルコーチ



フロアコーチEzp

○主な採用先

研究機関	大学	民間企業(一部外部公表を控えております)
宇宙航空研究開発機構 JAXA 相模原キャンパス	東京大学 宇宙線研究所 重力波推進室	島根富士通 生産技術部
産業技術総合研究所 ナノスピントロニクス研究センター	東京大学 大学院光量子科学研究センター	山形カシオ エレクトロニクス商品事業部
産業技術総合研究所 太陽光発電工学研究センター	東京大学 分子細胞生物学研究所	三井化学分析センター 構造解析研究部
産業技術総合研究所 計量標準センター	東北大学 AIMR原子分子材料科学高等研究機構	キリン 飲料研究所
理化学研究所 大型放射光施設スプリング8	東北大学 東北メディカル・バンク	レンズメーカー 光学機器部門
理化学研究所 播磨研究所 XFEL(SACLA)実験研究棟	東北大学 多元物質科学研究所	レンズメーカー レンズ部門
理化学研究所 和光研究所 情報基盤センター	山形大学 工学部 バイオ化学工業科	レンズメーカー 開発部門
物質・材料研究機構 材料信頼性実験棟	信州大学 工学部電気電子工学科	精密機器メーカー デバイス部門
食品総合研究所 ナノバイオ工学ユニット	名古屋大学 大学院理学研究所	自動車メーカー 生産技術部門
国立天文台 重力波プロジェクト推進室	京都大学 iPS細胞研究所	工業用機械メーカー
海洋研究開発機構 地球深部探査船「ちきゅう」	京都大学 生態学研究センター	化学材料メーカー
情報通信研究機構 未来ICT研究所	広島大学 大学院先端物質科学研究科	レーザー機器メーカー
科学技術交流財団「知の拠点あいち」	山口大学 大学院理学部 理工学研究科	半導体部品メーカー

◇電動ファン付き呼吸用保護具が国家検定化、普及促進に期待

平成26年11月28日、厚生労働省から電動ファン付き呼吸用保護具の規格が公布されました。これにより、電動ファン付き呼吸用保護具は、防じんマスク・防毒マスク同様、国家検定品の対象となりました。今後の普及促進が見込まれます。

電動ファン付き呼吸用保護具は、粉じん環境で使用するろ過式呼吸用保護具の中で最も防護性が高いマスクとして位置付けられ、有害性が高い粉じんが発生する作業や粉じん量が多い作業(作業例:石綿除去、トンネル建設工事、ダイオキシン類取扱いなど)では、粉じん障害防止規則や多くの通達などによって着用が義務付けられています。

当社は、2002年に世界で初めて電動ファン付き呼吸用保護具に呼吸追従形風量制御機構を搭載した呼吸追従形ブローマスク「プレスリンクブロー」シリーズを発売しました。その後も、安心かつ快適に使用できる“理想のマスク・究極のマスク”を目指し、風量制御機構の高性能化及び内圧監視、伝声器などの安全機能の追加とともに、製品ラインナップの充実と低価格化を図って参りました。

そして今回の国家検定化に対し、12機種の申請を行い、国家検定合格品として平成27年1月より販売を開始しております。今後、じん肺などの粉じんによる障害撲滅を目指し、販売に注力して参ります。

充実のラインナップ 呼吸追従形ブローマスク「プレスリンクブロー」シリーズ



BL-1005シリーズ
バッテリー内蔵モデル
初めて静電フィルタを採用



BL-700シリーズ
高い防護性を持つ全面形
石綿除去作業等で使用



BL-200シリーズ
作業現場の騒音下でも会話を
明瞭にする伝声器内蔵モデル



BL-100シリーズ
電動ファン付き呼吸用保護具の
スタンダードモデル

◇パンデミック対策、エマージェンシー対策として重要性が高まるマスク

近年、院内感染や食中毒など、細菌やウイルスに起因する感染症リスクが高まり、鳥インフルエンザやエボラ出血熱などの拡大も懸念されています。また、火山噴火や地震などの自然災害への備えも必要となっており、そうしたパンデミック・エマージェンシー対策用としてマスクの重要性が益々高まっています。

当社は、産業分野だけでなく医療機関に対しても「マスクの正しい装着方法」や「フィットの重要性」を伝える活動を続け、マスクの漏れ率測定を体験された方は30万人を超えました。また、子ども用マスクによる一般消費者市場への参入も果たし、今後は医療及び一般消費者市場においても、確固たる地位の構築を目指します。

なお、製品供給責任を果たすべくタイに設立した生産子会社(SIAM KOKEN LTD.)は、平成27年度より操業を開始します。



結核研究所のバイオハザード実験室で使用されている感染対策用マスク「ハイラック」シリーズ



御嶽山噴火の際の捜査・救援活動で使用された防毒マスク「R-5型」



サリンを想定した自衛隊の化学テロ訓練で着用される「00式防護マスク」

平成27年12月期の業績予想

次期見通し

(百万円未満切捨て)

今後の見通しにつきましては、国内景気の減速懸念は残るものの、政府による緊急経済対策の効果や雇用・所得環境の改善を背景とした消費者マインドの持ち直しによって、景気は緩やかな回復が続くと予想されます。

そのような環境の下、当社グループは産業用マスクの需要掘り起こし、医療・一般消費者用マスクのシェア獲得及び「KOACH」を中心としたクリーン市場に重点を置いた取り組みを続けて参ります。

次期の業績は、売上高78億円(当連結会計年度比4.0%増)、営業利益3億70百万円(同0.1%減)、経常利益3億円(同4.9%減)、当期純利益1億60百万円(同8.2%増)となる見通しです。

セグメント別の見通しは以下の通りであります。

(マスク関連事業)

当社は、フィットの重要性の啓発活動をマスクメーカーの使命として産業・医療・一般消費者それぞれの分野で継続し、シェア拡大を図ります。また平成26年12月から同保護具を含めた厚生労働省国家検定規格の新たなる対象となった電動ファン付き呼吸用保護具の販売強化を行い、同保護具を含めた高付加価値製品の売上比率向上を図って参ります。売上高は66億円(同1.7%減)となる見通しです。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」については、物件情報数を2,000件まで積み増した後は受注を中心とした営業活動に転じ、成約数の増大を図る予定です。また全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」については、採用ユーザー様からの高評価を後楯とした営業を継続することで着実に受注に結び付けます。

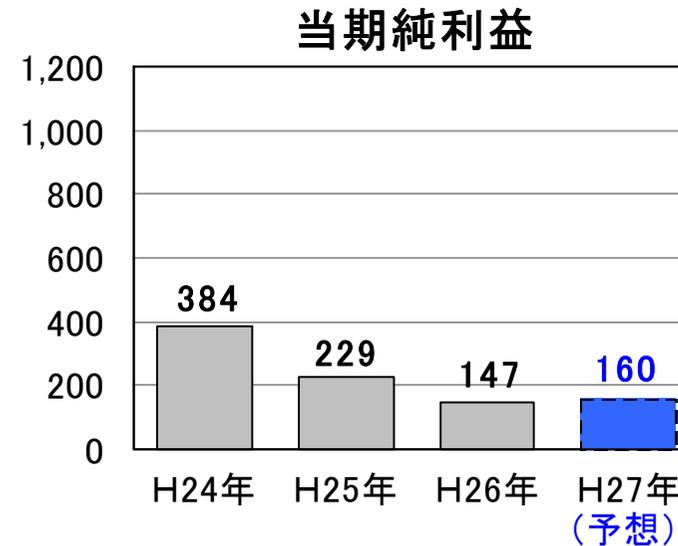
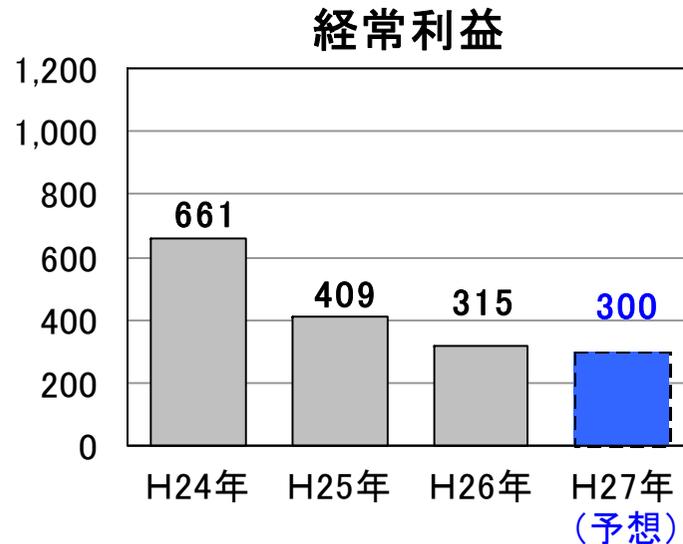
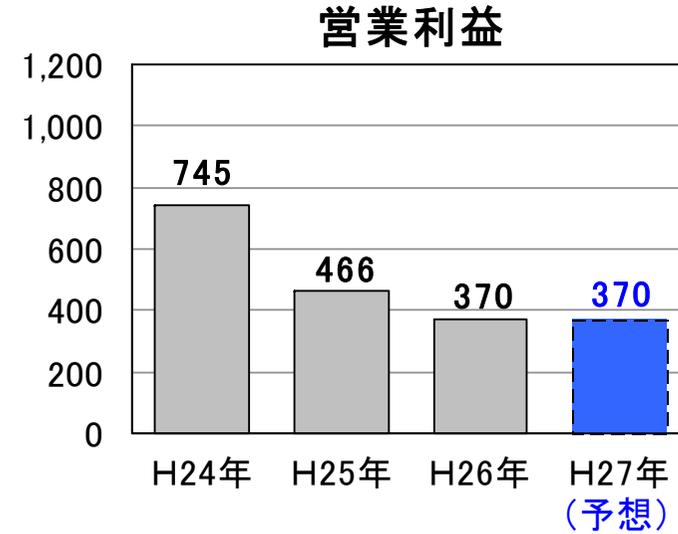
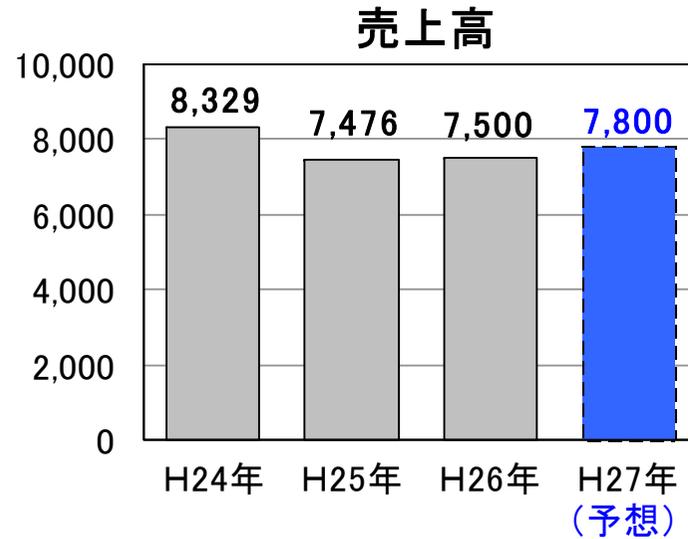
売上高は12億円(同53.0%増)となる見通しです。

なお、平成27年1月27日にリリースいたしました、抗菌剤「イマディーズTM」については、その特長を生かせる分野を模索しながら、事業展開を図って参ります。

区分	平成26年12月期 連結業績	平成27年12月期 連結業績予想
売上高	7,500	7,800
営業利益	370	370
経常利益	315	300
当期純利益	147	160
1株当たり当期純利益	29円22銭	31円58銭

連結業績予想

(百万円未満切捨て)



※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成26年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」発表日（平成27年2月13日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>